様式4

令和2年2月19日

令和元年度　　学校関係者評価及び改善策

（ 中間・最終 ）

天応中学校区　校番16　　学校名　呉市立天応中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	○体力・運動能力の県平均を上回るという目標は，達成が困難であると思う。指標はそのままで目標値を再考する必要がある。 ○家庭学習の1．5時間は中学生にとって適切な指標だと言える。しかし，結果の分析にもあったが，学年間で差が生じたことも考えれば，学年毎の指標を設定した方が，取組がより具体的になると思う。
目標達成のための方策の適切さ	A	○家庭学習を充実させるための方策として，掲示の工夫が行われていたが，豪雨災害後に実施が困難になっている。小中で連携し，掲示場所を確保していく必要がある。 ○学習面においては，自主的に意欲を高める方策を打ち出しているように思う。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	○結果分析が，丁寧で細かく行われ，それに伴う考察も学校全体でしっかりと練られている。 ○学習面において，家庭学習の時間とメディアの関係について，適切に分析されている。今後の改善に必要なデータとなっている。
今後の改善策（案）の適切さ	A	○細かく丁寧な結果の分析を受けて，今後の改善策も具体的で実践可能な内容である。 ○学習意欲向上に向けて，学習方法が理解されればより一層の努力が出ると思う。生徒の潜在能力を発揮させる指導もよい結果を生むと思う。
その他	○中学校として十分な環境が整っていない中，学校長をはじめ教職員が一丸となって取り組み，生徒の自己肯定感が高まっている。自信と誇りをもって学校生活を送っている様子は地域にとって大きな励みになると思う。 ○平成30年7月豪雨の際，中学生によるボランティア活動が大変評価された。自分たちができる活動で市民から感謝された。そのような社会貢献のための学習も今後の教育活動で必要になってくると思う。	

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○体力・運動能力についての目標値を，生徒の実態に合わせて変えていく。 ○いつまでに目標を達成するのか，スモールステップで一つ一つ明確な期限を決める。 ○学習指導において，他校の優れた事例を指標としてベンチマーキングしていく。 ○豪雨災害から学んだことをもとに，社会貢献できる生徒の育成を目指して具体的な教育課程を編制していく。